



今回は、第六代目の社協大旭支部長をされていた藤田廣作さんを紹介いたします。

ご本人の紹介
名前 **藤田廣作**
(ふじたひろさく)
年齢 86才
住所 笠間市旭町
社協大旭支部は、昭和55年3月に発足し、今年で38年になります。

これから紹介する藤田廣作さんは、社会福祉活動をはじめ、多方面にわたり活躍された方です。

◆ **少年期の苦しい体験**
16才頃、朝鮮総督府京城鐵道学校で学んでいたが、日本は敗戦となり、日本軍が居ない中、残された邦人は衣食に困り、大変な苦勞をしたとの事でした。

やっとの思いで、郷里の大



藤田廣作さん

◆ **略歴**

- ＊久慈郡大子町生まれ
- ＊朝鮮総督府京城鐵道学校卒業
- ＊陸上自衛隊勤務
- ＊旧友部町社会福祉協議会理事
- ＊同大旭支部長
- ＊旧友部町収入役
- ＊旧友部町民生委員・児童委員

子に帰ってきた時、家族の話では「廣作は死んでしまったのではないか」と思っていたそうです。

戦後、地元で働いていたが昭和25年に警察予備隊に入隊し、昭和44年陸上自衛隊幹部候補生学校を卒業。昭和57年に陸上自衛隊を定年退官（一等陸尉）されました。

◆ **支部長としての活躍**

平成7年から二期4年間、大旭支部長を務め、日本が少子高齢化に進む中、友部町の福祉の進む方向について心がけていたことは「子ども達が友部に住んで良かった。ずっと暮らし続けたい」と思ってもらえるような、共感できる地域づくりを念頭に運営をして来ました。

なお、支部活動の重点目標として前任者の事業を引き継ぎながら、次のような行事をおこなってこられた。

- ・一人暮らし高齢者世帯への配食サービス
- ・三世代交流会支援
- ・子ども会活動の支援と育成

会との懇談会

- ・クロッケー大会支援
- ・はなさか無料券の交付
- ・支部広報「おおあさひ」の発行
- ・社協や民協活動への協力
- ・その他

◆ **社会福祉とのかかわり**

友部町では「福祉の町宣言」をしてから、茨城大学の社会福祉関連の専門家である長谷川幸介先生を招いて、福祉の町づくりについて学んできました。

これを機に、友部町は茨城県内で他の市町村の手本となる福祉の町になりました。

この中の一環として、藤田さんは金婚式を町で行うことを提案し、高齢者の方々を祝福し大変よろこばれました。

また、地域の人の健康増進と融和を目的に、ラジオ体操や芋煮会などを行いました。現在でも行っていることは、児童に対して、声かけをして元気にしているかを見守る。など、公私に関わりなく、住み良い町づくりのために協力されています。

◆ **まとめ**

3時間にわたる対談の中で感じたことは「祖父母・父母・子ども達が友部に来て、友部に生まれて良かった」と思ってもらえる、環境作りに貢献した、社会福祉活動ではなかったかと思いました。

現在も、大好きいばらき県民会議マイスターや笠間地区自衛隊父兄会相談役等を引き受け、活躍しておられます。

今後とも、健康に留意され社会福祉の分野での協力をよろしく願います。



学童の下校を見守る藤田さん

ボランティアさん

楽しいひととき

友二小で、感謝する会

卒業式を間近に控えた3月7日、友部第二小学校で学校安全ボランティア（学区内登録者数43名）を招待して「地域の方に感謝する会」が開催され、代表の菅原毅さんほか11名のボランティアが参加しました。

この会は平成26年度に開催以来、全校児童とボランティアの交流の場として、同校体育館を会場に毎年行われています。

招待者は、集会委員会児童の掲げる花道（花のアーチ）の中を、拍手を受けながら会場へと入場しました。

司会進行は、伊師寧々さんと柴愛菜さんの二人で進められ

一、はじめの言葉

（高橋冬弥君）

二、お礼の言葉

（長谷川和紀君）

今日は寒い中、地域の方に感謝する会においていただき、ありがとうございます。

けると「よし、がんばろう」という気持ちになります。

今日は短い時間ですが、楽しいひとときを過ごしていただけたらうれしいです。

（長谷川君の手紙を、要約）

三、手紙と校歌のプレゼント
奈良崎海美さん以下の各学級代表児童から、お手紙集のプレゼントや、全校生の校歌の大合唱に聞き入る招待者は、喜びをかみしめている様子でした。

四、森田正男校長先生の挨拶
「地域の皆さんへの感謝の証は、児童全員が事故にあわないこと」と、児童への決意をうながしました。

また、招待者に対しては感謝の言葉と、飲酒運転車両による見守りボランティアの死亡事例を教訓とした、助言をいただきました。

五、菅原毅代表のお礼より
友二小の皆さんから、感謝の心をたくさん頂きました。これから交通ルールを守り、事故にあわないよう頑張ってください。

六、終りの言葉

（小坂春姫さん）

先生方と招待者との懇談会
・児童の温かい心に触れて、感謝の気持ちでいっぱい



花道を入場する、菅原代表と参加者

ありがとう タオルは

介護の必需品です。

在宅介護者ふれあいサロン

今年度の「在宅介護者とのふれあい事業」は、例年行ってきたサロン形式（介護者の体験発表・笠間市の保健師さんの助言や、食事をとおした在宅介護者の方々とのふれ



記念品

あいを通して、ひとときの語らいの場のご提供）から、民生委員・児童委員による在宅介護者宅への、訪問に変更して行われました。

変更に至る主な理由は、在宅介護にあたる方々が、たとえひと時の外出でも備えが必要となること。また外出先においても、常に自宅の事が心配で、くつろぎの時を楽しむことが出来ない。などから、出席者が数人に限定される状況にありました。

このため大旭支部では、年度はじめの代議員総会、役員会、民生委員・児童委員との話し合いを重ねた結果「民生委員・児童委員による自宅訪問と記念品（大型タオル）のお届けと、要望のお伺いをする訪問へと変更をいたしました。

今回の活動を、従来の方法と比較してみますと
一、本年度の訪問軒数：29軒

- ・サロンの出席者数：数名
- 二、皆様から寄せられたお声
・お誘いを受けても出席できず心苦しかった。
- ・介護者の立場を、分かってくれている。うれしい！
- ・タオルは、介護の必需品です。心くばりがあります。

三、訪問者の感想、意見など
・感謝の言葉が多かった。
・対象者の見落としがあるかもしれない。検討を要す。

など、たくさん成果と課題が見える結果となりました。今回の活動を踏まえて、主催者の菅原毅支部長は「地域福祉活動のさらなる充実を目指して、今回の活動経過を次につなげていきます」と、語っていました。

ここで本事業の主な歩みを、支部報で振り返りますと
・第62号（平成13年2月）

故平倉ヒサ氏（元社協大旭支部副支部長）「介護体験を通した、医療・保健・福祉の連携、地域のかかわりの大切さ」の体験発表。

・第85号（平成20年8月）

「第1回在宅介護者との、ふれあいサロン開催」
など、息の長い活動経過が、記録されております。

平成28年度会員会費の報告とお礼

平成28年度の社会福祉協議会・会員会費の募集に際しましては、皆様方の温かいご理解とご協力を頂き心から感謝申し上げます。

お蔭様で左表のとおり、

会員会費をいただくことが出来ました。これも、皆様方の福祉に対する深いご理解のたまものと、心から厚くお礼申し上げます。

なお、当支部に対する交

付金は、還元金と福祉コミュニティ助成金ならびに広報助成金の合計額、11万8450円が交付されました。

これら還元金等は、大旭

支部の事業に大切に活用させていただきますので、今後とも皆様方のご理解とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

顕彰者の紹介

2月26日開催の「笠間市社会福祉大会」で若狭山団地の調朝幸さんが同市社会福祉協議会会長から、功労表彰を受けました。

調さんは平成21年以来、当大旭支部および笠間市社会福祉協議会の広報委員として、指導的役割をはたしております。

今後とも引き続き、ご活躍をお祈りいたします。

民生委員・児童委員の、改選のお知らせ

昨年末、民生委員・児童委員の一斉改選により、第二小学校区内で次の方々が、退任ならびに就任をされました。

・退任者

旭台区 米川 操様
大沢下一区 狩谷 博道様

・新任者

旭台区 寺門 常康様
大沢下一区 鈴木 重雄様

地域福祉を推進された退任者への感謝と、新任者の活躍を期待いたします。

なお詳細は、民生委員・児童委員協議会機関紙(ぬくもり、2月発行)を、ご参照下さい。

平成28年度 大旭支部会員会費報告

地区名	法人	特別	一般	会員	合計
矢野下藤株	0	0	18	18	18,000
矢野下郷	0	0	78	78	78,000
大沢上1	0	3	97	100	106,000
大沢上2	0	2	58	60	73,000
大沢上3	0	1	56	57	61,000
大沢下1	9	9	95	113	175,000
大沢下2	0	2	120	122	126,000
八幡台1	0	1	64	65	67,000
八幡台2	0	0	83	83	83,000
原団地	0	0	45	45	45,000
清住町	0	0	60	60	60,000
若狭山	0	5	37	42	52,000
旭台	9	4	157	170	198,000
旭台団地1	0	0	64	64	64,000
旭台団地2	0	1	58	59	61,000
旭台団地3	0	0	59	59	59,000
旭台団地4	0	2	28	30	34,000
旭平1	0	1	210	211	213,000
旭平2	12	0	86	98	122,000
旭平団地	0	0	37	37	37,000
旭崎1	4	5	137	146	172,000
旭崎2	0	0	30	30	30,000
緑ヶ丘団地	0	0	16	16	16,000
サステージ	0	0	19	19	19,000
矢野下本郷	0	0	10	10	10,000
アクシズタワー旭台				0	0
合計	34	36	1722	1792	1,979,000

地域の発展に寄与
安心して暮らせる街に
ふれあい食事会開く

梅の花も咲き誇り、桜のつぼみも膨らんで温かさが待ち遠しい日々、社会福祉協議会大旭支部(菅原毅支部長)の「ふれあい食事会」が3月5日(日)午前10時30分から友部社会福祉会館で、支部内の80歳以上の高齢者を対象に、毎年開催しているもので、今回は約100人が参加して行われました。



季節感あふれたお弁当

クシヨンや食事会を楽しみに参加される方が多くなっています。

小野武副支部長の司会で始まり、菅原支部長は「たくさんの方に参加していただき、ありがとうございます。昨年より参加人数も増え、地域の発展に寄与してきた方々ばかり、地域を育てるということから、日頃頑張っておりま

す。人と話す機会を大切にしてください。毎年皆さんのお元気なお姿を拝見でき、皆さんに負けないよう頑張ります」とあいさつされました。



ひよっとこ踊りを楽しむ参加者

来賓として、山口伸樹笠間市長は「日ごろから、社協の活動には皆様からご協力、ご支援をいただきありがとうございます。健康には十分気を付けていただき、回りが支え合う地域こそが、安心して暮らせる地域です」とあいさつ

し、小池和夫笠間市社会福祉協議会次長も「教養(今日用事がある)教育(今日行くところがある)」が一番大事です。いつまでも仲良く、生きがいを持って活動し、大人の交流をしていただきたいと思います」と祝辞を述べました。

アトラクシオンでは、社会福祉協議会野菊の会の皆さん方による「ひよっとこ踊り」は、一緒に手真似するなど会場が一体になり興奮の埒場になり、最高潮になったところで、アンサンブルY&Kのハーモニカの演奏では、思い



ボランティアのサポートで楽しい食事会

いに旅情歌演奏に聞き入り、小松崎美恵子さんのチンドン屋、南京玉すだれなど、会場は笑いの渦につつまれていきました。

食事会では、にじの会の皆さんが参加者の健康を考えながら、一品一品心を込めて作られた季節感あふれるお弁当が、参加者全員に配られました。渡辺会長は「皆さんがたが、おいしかったと言ってくれることが一番です。ひとつひとつの食材には、十分注意をはかりながら作りしたので、安心して食してください」とあいさつし、参加者全員で食事を楽しみました。

最後には、参加者全員に記念品が贈られ、また、来年会えることを約束し散会しました。

おおあさひ支部報